



CONTENTS

- 2017 年度諫早湾保全生態研究グループの有明海調査参加報告
- 平成 28 年熊本地震地盤災害調査報告会の参加報告
- 低平地研究会 平成 28 年度活動報告会の開催報告
- 鹿島ガタリンピックでの展示「スマホ顕微鏡で生き物を撮影しよう」
- ハリアント・トリ准教授の外国人客員准教授としての再任

本センターは、「低平地・沿岸海域」を切り口とする国内唯一の学術研究機関として、有明海およびその沿岸低平地の諸問題はもとより、アジアの低平地研究の中核的拠点として広く研究成果を発信するとともに、恰好の研究・教育フィールドを活かした国際的・地域的な研究・教育を推進しています。

2017 年度諫早湾保全生態研究グループの有明海調査参加報告

本調査は長崎大学の東幹夫名誉教授、静岡大学の佐藤慎一准教授らが中心となって構成される諫早湾保全生態学研究グループにより有明海湾奥部から湾中央部、諫早湾および調整池を対象として毎年6月に3~4日間かけて実施されている調査である。開始から今年で20年目を迎え、これほど長く継続的に行われているモニタリング調査というのは他に類をみないと思われる。この調査には2012年からほぼ毎年吉野も参加・協力しており、今年も6月19日の諫早湾調整池16地点の調査に参加した。梅雨入り後ではあったが、当日は日が差し暑いくらいのコンディションであったが調査には申し分なかった。

調査では筆者は2015年と同様に底生生物の採集ではおなじみの採泥器で採取された泥をふるう作業を手伝った。ふるう作業はそれなりにエネルギーを要するが、その分採取された泥中にどんな生き物がいるかを直接みるのが



できる。基本的に池内は完全な淡水ではないものの、堤防の外でみられる海産・汽水産ベントスは現在ほぼ皆無でユスリカ類や貧毛類のみしかみられない。しかしながら、今年もヨコエビに出会うことができた。正確な同定には顕微鏡下での観察が必要であるが、おそらく2008年に新属新種として記載されたイサハヤカマカモドキであろう。このヨコエビは調整池以外での生息場所がほとんど確認されておらず、極めてレア度が高く絶滅も危惧されている。2015年の調査では採取されなかったが、なんとか個体群を維持しているようだ。はたして来年も採取されるのか、今後も継続して調査には参加していき

たい。

(吉野健児)

## 平成 28 年熊本地震地盤災害調査報告会の参加報告

4月22日(土)に熊本大学で、(公社)地盤工学会主催の熊本地震災害報告会が開催されました。今回の報告会には国や自治体の行政担当者をはじめ全国各地から200名を超える参加者があり、会場は超満員となりました。平成28年熊本地震地盤災害調査団の構造物調査班主査として参加したセンターの末次大輔准教授が、熊本県内で発生した補強土壁や切土法面工などの構造物の

被災状況ならびにこれから取り組むべき課題を報告しました。特に、今回の熊本地震では強い揺れが発生したエリアよりも、揺れは小さいが地震断層付近で構造物に甚大な被害が生じていることが報告されました。その他、熊本市内や阿蘇地方で生じた液状化被害とその特徴、阿蘇大橋付近で大崩壊を起こした斜面の調査結果や、斜面崩壊と熊本阿蘇地方を構成する地盤・地質の特

殊性との関連性についての報告がなされました。続いて行われた行政担当者や技術者をパネリストに迎えたディスカッションでは、宅地の地盤対策について現行の建築における地盤調査法の問題点や、損傷を受けた宅地地盤が使えるかどうかを評価する技術的な課題などが議論されました。

(末次大輔)

## 低平地研究会 平成 28 年度活動報告会の開催報告

4月28日(金)に低平地研究会の平成28年度活動報告会を開催しました。活動報告会では、東京大学教授の西村幸夫先生による特別講演と、研究会の5つの専門部会の活動報告が行われました。西村先生の講演では、「低平地に立地した佐賀城下町の個性について」のテーマについてお話いただきました。安土城や富山城などの城下町の形成と比較しながら、佐賀城を中心とした都市の発展について講演いただきました。



研究会の活動報告では、まず三島伸雄副センター長(低平地研究会運営委員長)から平成28年度の研究会活動の概要が説明されたあと、基盤整備、環境、

都市空間、地域創成、および歴史文化の各専門部会からの活動報告が行われました。基盤整備専門部会からは熊本の震災が起こったことを踏まえ、地域の地震防災に関連する活動の紹介や、都市空間部会では鹿島市浜宿をフィールドに地域や学生とともにまちづくりのあり方を考える取り組みなど、地域に密着してタイムリーな活動が展開されたことが報告されました。

(末次大輔)



## 鹿島ガタリンピックでの展示「スマホ顕微鏡で生き物を撮影しよう」

今年で第33回目となる「鹿島ガタリ

ンピック」が6月11日(日曜日)に開

催されました。ガタリンピックは道の

駅鹿島で行われており、同じ敷地内にある鹿島市干潟展望館（一部の施設は佐賀大学干潟環境教育サテライトむつごろう館）では、このイベントに合わせて、様々展示を行っています。昨年度までは様々な団体との連携でしたが、今年度は諸事情により、低平地沿岸海域研究センターと鹿島市干潟展望館のみの共催となりました。

今年度は市販されているスマホ顕微

鏡 Leye を用いて、海の中の小さな生き物（動物プランクトンおよび植物プランクトン）や干潟上の底棲微細藻類（主に珪藻）を題材に、来客者へ生き物の解説や生物撮影をしました。多くの方に実際に撮影作業をしてもらいました。「夏休みの宿題につかえそうなので、ぜひ夏に企画して欲しい」などの意見を頂きました。

今後も様々な「サイエンスコミュニ

ケーション」の活動を実施して区予定です。



## ハリアント・トリ准教授の外国人客員准教授としての再任

平成 29 (2017) 年 6 月 26 日より、インドネシア・ハサヌディン大学における

ハリアント・トリ准教授 (Dr. Tri Harianto) が当センターの外国人客員准教授として再任しました。任期は平成 30 (2018) 年 3 月末までです。

ハリアント准教授は、平成 20 (2008) 年 9 月に本学博士後期課程を修了（主指導教員：林重徳元当センター教授）、しかる後に母校のハサヌディン大学に戻って教鞭をとり、今に至ります。

上記の間、文部科学省国費留学生・本学大学院工学系研究科博士前期課程学生として本稿筆者のもとに学生 (Ms.

Fakhriya Usman) を派遣したことをはじめ、平成 23 (2011) 年 10 月から平成 24 (2012) 年 3 月の間も当センターの外国人客員准教授を歴任、インドネシア・バリを舞台とした「第 8 回低平地に関する国際会議 (ISLT 2012)」の大成功裏の閉幕、荒木宏之センター長ならびに三島悠一郎講師（工学系研究科都市工学専攻）による主導・4 年前からの取組となる「Asian を対象とした国際協働教育プログラム～低平地都市における社会資本の開発と管理～」への積極的な協力、ハサヌディン大学における学長一行を率いた低平地沿岸海域研究センター・サテライトの締結な

ど、これまでの本学および当センターに対する彼の貢献は枚挙に暇ありません。

ハリアント准教授の在任期間中の役割として、当センターにおける国際活動への貢献をはじめ、低平地地圏科学研究分野に関する研究の推進、地域社会への貢献、学生教育への貢献を進めていただきます。

(日野剛徳)

### ● ● ● 編集後記 ● ● ●

6 月のはじめに梅雨入りをしたはずなのに、その後雨はほとんどふることがなく、「空梅雨」なのかと心配しておりましたが、このニューズレターを編集している月末になって、梅雨空になりました。「大雨警報」が出ている地域もあり、ひどい災害にならなければ良いと思いますが、降らないのも困るので・・・なかなか複雑な気分です。

(藤井直紀)

### 発行・編集

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター  
〒840-8502 佐賀市本庄町 1 番地  
TEL 0952-28-8582 0952-28-8846  
FAX 0952-28-8189 0952-28-8846  
E-mail ilt@ilt.saga-u.ac.jp  
ホームページ  
http://ilt.saga-u.ac.jp